

宗教と医療

【単位数: 1単位, 授業13コマ】

1 科目責任者

橋本貴宏 教授(特任)(数学)

科目担当者

岡島秀隆(非常勤講師)

2 教育目標

(1) ねらい(I-2-c)

- ① コンピテンスにおける「プロフェッショナリズム」(医師としての価値観・態度・姿勢など), 及び「コミュニケーション」(患者・家族・社会との良好な関係の構築など)の涵養に努める。
- ② 多様な宗教的価値観の理解を通して医師としての人格を磨き, 倫理観を養い, さらに患者・家族・地域との共感的コミュニケーション能力の育成に努める。
- ③ 宗教, 殊に禅仏教の方法論(瞑想と思量)を用いて, 医療現場に不可欠の不動心の鍛錬と集中力の育成, 及び柔軟心の涵養を目指す。

(2) 学修目標

- ① 国際社会を見据えて多様な宗教に関する基本的知識を習得する。
- ② 宗教を通じて多様な人間観・世界観・価値観を学ぶ。
- ③ 一般的教養を身につけ, 医師としての倫理観や他者への共感能力を培う。
- ④ キリスト教的信条と医療現場の具体的課題を考える。
- ⑤ イスラム教的信条と医療現場の具体的課題を考える。
- ⑥ 禅の瞑想法(椅子坐禅)によって平常心を培う。
- ⑦ 禅問答の具体例を学びながら柔軟な思考能力を養う。
- ⑧ 禅・仏教の金言名句に触れ生きる意味を再考する。
- ⑨ 禅・仏教の言葉を通して死生観を考える。
- ⑩ 終末期ケアへの宗教者の参与可能性(スピリチュアル・ケアなど)を考える。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
課題レポート	○	60%	講義内容(教科書など)から論題を与え, レポートを提出させる。
小レポート	○	40%	毎回の講義で提出するアクションペーパーの内容を吟味して評価する。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は, 10%を限度に減点をする。

出席: 単位を修得するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

課題レポート, 小レポートの合計が60%未満の場合は, 再試験を実施する。

再試験はレポートを課す(60%以上で合格)。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

小レポートへの講評は、授業中に行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
『思考禪のススメ 仏祖の言葉を読んでみよう』	岡島秀隆	北樹出版	禪・仏教の格言などをわかりやすく紹介している。

必要に応じて AIDLE-K に資料ファイルなどを配付する。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化（中公新書）	中村圭志	中央公論社	網羅的で購入しやすい。
宗教学の名著30（ちくま新書）	島薦 進	筑摩書房	基本図書の紹介であり購入しやすい。
仏教入門（岩波新書）	三枝充惠	岩波書店	定番で購入しやすい。
禪学入門（文庫）	鈴木大拙	講談社	定番で購入しやすい。

必要に応じて講義中に紹介する。

6 準備学習（予習・復習）

- 予習：教科書・参考図書・ネット情報などを参照して、講義タイトルに関連する知識を可能な限り収集しておく（1コマあたり約0.5時間）。
- 復習：講義で取り上げられた教科書の内容、配付された資料、及び自己作成メモ・ノートを講義後に再確認する（1コマあたり約1時間）。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に教室での知識伝達型の講義である。適宜アクティブ・ラーニング手法を導入する。毎回講義終了前に質疑応答の時間を設ける。

(2) 講義の内容

- 宗教的信条が医療に関わる事例などをできる限り紹介するように努める。
場合によっては小レポート（リアクションペーパーで代替）のテーマにする。
- 毎回瞑想（椅子坐禪）を行い、心を鎮め身心を統一する訓練を行う。
- 禪・仏教の金言名句に触れて生きる意味と多様な考え方を学ぶ。